

## (1) 教育目的、ディプロマポリシー・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

### \*教育目的

公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、人々の命を守り健康を増進させるとともに、健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上、健康を維持する社会づくりに寄与する。そのために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決ができる高度専門職業人を養成する。また保健医療活動に代表される、人々の生命を守る活動を統括指導できる高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ公衆衛生の上級管理者・上級指導者の養成を目的とする。このような公衆衛生の人材育成を通じた社会貢献を行うことが研究科の教育目的である。

公衆衛生学専攻（博士後期課程）は、公衆衛生学研究科の目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力の獲得を必須のものとする。加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。

### \*ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

公衆衛生学研究科博士後期課程は、公衆衛生学研究科の目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力の獲得を必須のものとする。加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。従って、本公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻の博士後期課程においては、そのような上級管理職・上級指導者という観点から以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

1. 公衆衛生の実際の場合における問題解決のために公衆衛生の5つのコア領域（疫学、生物統計学、社会行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学）の総合的能力を持ち、分野横断的な組織や活動を率いる能力がある。
2. 変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価することのできる能力がある。
3. 公衆衛生の実践において指導的立場の専門家に求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシー（別記）を有している。
4. 人々の命を守り健康を増進させるために、そして健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決を行い、その活動を統括指導する能力を有している。
5. 身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。
6. グローバルな視点をもって指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。
7. 上記1から6を通じて、社会や組織、保健医療課題の変化に貢献しうる総合的な能力と資質を培っている。

## \*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される知識・能力を修得するために、公衆衛生学研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 公衆衛生の現場における問題解決のために、公衆衛生の 5 つのコア領域を総合的に理解し、かつ分野横断的な組織や活動を率いる人材を養成するために、共通科目として国際標準として公衆衛生高等教育に求められる 5 つの領域の科目を設け、さらに 3 つの専門分野（「疫学・生物統計学分野」、「産業環境保健学分野」、「保健政策・医療管理学分野」）の授業科目を設ける。
2. 変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題を発見し、それに対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる人材を目指し、各専門分野の研究指導教員による「特殊研究」科目を設ける。「特殊研究」は個別の課題に実際の現場で取り組むことを通じて、公衆衛生の総合力、問題解決能力、コンピテンシーの向上を図る。
3. 公衆衛生の実践と教育・研究を行う実施チームのリーダーとして適切かつ迅速に対応できるリーダーシップを核とする能力を身につけるため、養成する人材像にかかわらず、3 分野共通の必修科目（「リーダーシップ・マネジメント特論」）を設ける。
4. 国際通用性の観点から、海外の最新事情や最先端の知識に触れグローバルな視点を身につけるため、公衆衛生学の 5 つのコア領域について海外提携校の教授陣による授業科目を設ける。加えて、主にアジア諸国の提携校の学生も参加して実施される英語による講義科目（「Seminar on Healthcare Management」、「Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society」）も設けている。

## 公衆衛生学研究科について

帝京大学大学院公衆衛生学研究科（帝京 SPH）は、2011 年 4 月に専門職学位課程として開設されました。Master of Public Health (MPH) に加えて、2014 年 4 月には Doctor of Public Health (DrPH) を取得できる博士後期課程も開講しました。本学の建学の精神と教育指針にある実学、国際性、開放性に則り、公衆衛生の専門職の育成を目的にしています。

帝京 SPH の特長は、ハーバード大学等との連携のもと、国際基準で必須とされる 5 分野（疫学、生物統計学、産業環境保健学、保健政策管理学、社会行動科学）を基本としたカリキュラム、21 世紀の保健医療専門職の教育として必要とされるコンピテンシー基盤型教育を通じた問題解決のできる人材、すなわち、世の中や社会あるいは組織を変えることのできる“Change Agents”の育成です。

日本や世界の公衆衛生と保健医療福祉は常に大きな問題を抱えています。時代により問題は変化し、解決方法も一様ではありません。現在、そして将来の課題と社会のニーズに対応できる Change Agents を育てるため、以下のミッション、ビジョン、バリュー、そして、ゴールをもとに、教育、研究、そして公衆衛生の実践を続けます。

### ミッション

社会における公衆衛生課題の解決を目指すリーダー（Change agent）を養成する教育と、実践に結びつく科学的研究を通じて、健康でより良い社会をつくり、いのちとくらしを衛ります。

### ビジョン

- ・ 公衆衛生専門職教育のフロントランナーとして、科学と実践を結ぶ問題解決能力と研究能力を養い、より健康な社会づくりを目指すリーダーを育成する場であり続けます。
- ・ 公衆衛生の専門職教育と連携し、公衆衛生課題の解決に結びつく研究に基づいてより健康で良い社会に変えます。

### バリュー

自発的に、実践的に、多様に、革新的に、科学的に、国際的に、公衆衛生活動を共に。

### ゴール

- ・ 公衆衛生課題の解決に資する実践的・科学的研究を国内外で実施し、その成果をもとにより健康な社会の実現に努めます。
- ・ 日本とアジアの公衆衛生大学院における専門職教育改革を推進するため、高い資質と能力を備えた専門家を世に送る専門職大学院の実践的な教育方法の開発と実施に努めます。
- ・ 日本国内外でおこる公衆衛生の現在あるいは将来の課題に取り組むよう、地域や産業界などとも連携し、地域社会（コミュニティ）での公衆衛生に貢献する活動を行います。

公衆衛生学研究科長 福田吉治

## (2) コンピテンシー基盤型教育、問題解決型アプローチ

### コンピテンシー基盤型教育

公衆衛生活動を統括指導できる公衆衛生の高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ上級管理者・上級指導者としての人材の養成を目的とする大学院公衆衛生学専攻（博士後期課程・DrPH）では、そのような上級管理職・上級指導者にふさわしい能力・資質を明示することが、学習を行う上でもその教育を行う上でも有用と考える。現在、欧米で広がっているアウトカム基盤型教育と修得すべきコンピテンシー設定は世界的流れになっている。本学の建学の精神にある実学の重要性を考慮し、国際的視野を持つためには、国際的基準に則った教育が必須である。

公衆衛生専門職に求められる国際的基準に見合った教育のため、本研究科では2014年度から本格的にコンピテンシー基盤型教育を開始した。コンピテンシーを定めるために、DrPH取得者の能力・資質を本研究科の教員で議論し、かつ米国公衆衛生大学院協会（ASPPH）によるDrPHコンピテンシー（2009年）を背景も含めて検討した。その結果、以下に示す8項目を本研究科のDrPHコンピテンシーとして定めた。教員は、各コンピテンシーを本研究科のDrPH取得者に期待される素養として教育に取り組み、大学院生も在籍中の研究・公衆衛生活動を通じてその涵養を目指す。

#### I. 職業意識と倫理

倫理的問題を同定し分析する能力

個人の自由の追求と集団の健康をまもり増進するという専門職としての責任のバランスを取り、公衆衛生の研究や実践において、社会正義や人権の概念に基づいて行動する能力

1. 肉体的・精神的・社会的に弱い状況におかれた者の立場を十分に理解し、公衆衛生上の倫理規範に基づいて公衆衛生の実践を指導することができる。
2. 公衆衛生実践者、研究者、機関が遭遇する可能性のある利益相反について適切に対処できる。
3. 公衆衛生活動、研究、法律、政策、における倫理的懸念を解決するための戦略を策定できる。
4. 保健事業、政策、研究に関わる個人や共同体のプライバシーを保護するための方法を実施できる。

#### II. 批判的分析

論理的かつエビデンスに基づいて公衆衛生活動を行う能力

1. 医学公衆衛生学領域の学術的成果・広範な領域からの考え方・健康関連データを統合し適用することによって、公衆衛生の向上のためのプログラム・施策・しくみを発展させることができる。
2. 地域と住民の公衆衛生上のニーズと資源の評価、健康サーベイランスシステムの開発、健康増進プログラム・施策の評価など一連のプロセスを主導することができる。
3. 問題を定式化し、データを定量的かつ定性的に解釈し、リスク・ベネフィットを見積もり、多様な情報を統合して実践することができる。
4. 実践の過程や結果として得られた新規性・普遍性・発展性のある情報を広く利用できる形で発信し、その普及を図ることができる。

#### III. 地域・文化交流

公衆衛生活動において、多様な地域に属する人々や異なる文化背景にある人々と交流し、相互活性化する能力

1. 地域、職域、その他のグループや行政組織と交流し共に活動できる。
2. 地域の健康面における文化、環境及び社会的公正性の現状を評価し、改善策を探究できる。
3. 地域等での人々の活動を参加者の主体性の観点から評価し、主導できる。

#### IV. コミュニケーション

個人・集団・地域・政策に情報を提供し公衆衛生活動の方向性を示す目的で、人々に対してどのようにコミュニケーション戦略を立てれば良いのかを提案・評価し活用する能力

1. ヘルスリテラシーが異なる様々な集団に働きかけるため、理論と戦略に基づいたコミュニケーションのゴール、目的、優先度を設定できる。
2. 個人どうし、ならびに集団と社会を対象にしたヘルスコミュニケーションとソーシャルマーケティングについて説明し、活用することができる。
3. 専門家や政策策定者などに対して、コミュニケーションプログラムの提案を行い、その評価方法について説明できる。
4. 内外の協力者を含めた必要な人的ネットワークを構築できる。

#### V. 運営管理

現状の法令や社会制度と調整しつつ、構成員の積極的参加をはかり、目標達成に向けて保健医療組織を運営できる能力

1. 戦略的に決められたプロセスに沿って保健計画及びその実施のための財政・事業計画を策定できる。
2. 保健計画の策定・実施のための方策・手順と法令上の制約との調整を行える。
3. 責任、権限、コミュニケーション及びガバナンス（統率）が明確化かつ体系化された組織を構築するとともに適正な人事管理を行える。
4. 組織の活動目標の達成度を適正に評価できる。

#### VI. リーダーシップ

公衆衛生活動を強化するために共有できる展望(価値)を創造して伝え、他者からの信頼感を高めてやる気を出させ、根拠に基づく戦略を用いる能力

1. 共有できる展望を創造できる。
2. 新たな保健活動の取り組みを実施するための効果的なチームを構築して率いることができる。
3. 内外の状況調査に基づいて組織の意思決定と企画立案を指導できる。
4. 個人、組織、地域社会ごとの能力向上戦略を開発できる。

#### VII. アドボカシー

公衆衛生を増進する政策やその実践のための意思決定に影響を与える能力

1. 健康問題に関して法律や政策の役割を説明して利用できる。
2. 科学的根拠・利害関係者からの視点・世論データに基づき健康政策やプログラムの意思決定に影響を与えることができる。
3. 合意形成・交渉・対立回避などの決議技術を利用できる。
4. 健康政策や法律を変更するために根拠に基づく戦略を立案できる。

#### VIII. 国際通用性

国際水準の活動、国際的な場でのコミュニケーションができ、国際機関・NGO等で専門家としての役割を果たす能力

1. 公衆衛生にかかわる最新の国際的専門知識や現場の実務的情報を把握し、活用できる。
2. 公衆衛生活動の内容・成果を海外向けに口頭や文書で情報発信できる。
3. 関連国の保健医療政策・制度の知識を有し、国際機関・NGO等において公衆衛生の専門家としての役割を果たすことができる。

## 問題解決型アプローチ

本研究科では、問題解決能力を備えた実務を担う上級管理者・上級指導者に必要な素養として、問題解決型アプローチで考えて行動する力の育成を目指している。

問題解決型アプローチは、まず公衆衛生上の問題を発見し、その問題の具体的な原因と結果を考えて問題を定式化することから始まる。そして、原因と結果の定式化をもとに定量的・定性的に問題を解析して問題の程度を把握する。同時に、既存の学術文献や制度・政策等の情報から当該公衆衛生課題に対する既存の知見を分析し、自らが取り組む公衆衛生の問題がいかんにして検証されているか否かを把握しておく。これらの科学的根拠に基づいて、問題を取りまく社会的要因や利害関係者（ステークホルダー）を列挙して分析し、問題解決に際して配慮すべき関係者の整理を行う。このような分析を中心としたプロセスの後、問題解決の実践のために解決策の計画を立案する。複数立案された施策についてはその優先順位をつけて実行する（実行計画をたてる）。その後、行った施策の評価を行い、次のプロセスにつなげる。以上の流れで公衆衛生課題に取り組むアプローチを身につけて実践に活かす。

博士後期課程では、その最終成果として「学位論文」を提出する。公衆衛生の基本 5 領域 の知識と技能を体系的に活かして、上記の問題解決型アプローチに沿った公衆衛生上の実践課題の分析に取り組み、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価する。そのうえで、主体的にフィールドでの実際の活動に取り組み、介入やその事後評価といった一連の公衆衛生活動のプロセスを実践すべく、社会を動かす上級管理職たる素養を示すのが、本学の学位論文（成果物）である。

### (3) 行事予定

内容	対象学年	日程
健康診断	全学年	4月 2日(木) ※在學生 4月 3日(金) ※新入生・在學生 4月 6日(月) ※新入生・在學生
オリエンテーション (学生証の発行、科目履修の手続き、アウトカム 基盤型教育とコアコンピテンシーの概要、等)	1年生	4月 3日(金)
入学式	1年生	4月 4日(土) 午前
前期授業の期間 (a学期、b学期)	全学年	4月 6日(月)～8月 7日(金)
履修届けの提出期限	全学年	4月 17日(金) (※1)
学位論文に関するガイダンス	1年生	5月 7日(木)
学位申請に関するガイダンス (申請手続き)	3年生	5月 7日(木)
学位論文 内部審査会(計画審査) 内部審査会(中間審査・学内最終審査)	全学年	5月上旬から順次
学位論文 学位申請の受付	3年生 (※2)	5月 11日(月)～11月 12日(木)
創立記念日	全学年	6月 29日(土) 授業あり
夏季休業期間	全学年	8月 11日(火)～9月 11日(金)
後期授業の期間 (c学期、d学期)	全学年	9月 14日(月)～12月 25日(金)
学位論文審査会	3年生 (※2)	12月中旬～2月 4日(木)
学位授与式(日本武道館) (帝京大学グループ卒業式)	学位授与者	3月 21日(日) 予定

(※1) 履修変更届けは、各学期内で実施される授業科目ごとに以下ようになる。

- ◇ 前期前半(a学期)：履修届け提出により確定 / 締切日 4月 17日(金)
- ◇ 前期後半(b学期)：締切日 6月 26日(金)
- ◇ 夏期(s学期)：締切日 6月 26日(金)
- ◇ 後期前半(c学期)：締切日 9月 25日(金)
- ◇ 後期後半(d学期)：締切日 11月 20日(金)
- ◇ 冬期(w学期)：締切日 11月 20日(金)

注) w学期に実施される冬期集中講義(海外客員教授による特論)に関しては、履修届け提出前に研究指導教員と十分に相談した上で決定する。

(※2) 早期修了を希望する者は、研究指導教員にその旨を相談するとともに、学位論文審査の受付時期等について事務部教務課(大学院担当)へ詳細を問合わせること。

(4) 授業科目一覧・時間割 (博士後期課程)

2020年度 公衆衛生学研究科 博士後期課程 授業科目一覧

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数			授業形態	授業時間割				科目責任者	備考
			必修	選必	選択		配当年次	学期	曜日	時限		
共通科目		HPM 314 リーダーシップ・マネジメント特論	1			講義	1	c,d	水	1,2	石川ひろの 教授	
		EPI 301 基礎疫学特論	4			講義 演習	1	a,b	木	3,4	大脇 和浩 教授	
		BIO 301 基礎生物統計学特論	4			講義 演習	1	a,b	水	1,2	宮田 敏 教授	
		HBS 301 健康行動科学特論	2			講義	1	a,b	水	3	石川ひろの 教授	
		HPM 303 保健政策・医療管理学特論	1			講義	1	a	火	1,2	中田 善規 教授	
		OEH 301 産業環境保健学特論	1			講義	1	a	火	1,2	福田 吉治 教授	
		ID 301 公衆衛生倫理学特論	1			講義	1	a	水	4	石川ひろの 教授	
		ID 111 医学基礎・臨床医学特論			2	講義	1	a	月	1,2	渋谷 克彦 講師	
疫学・生物統計学分野		EPI 321 臨床疫学特論		2		講義 演習	1	c,d	木	3,4	大脇 和浩 教授	
		EPI 351 リスク科学特論			1	講義	1	d	月	1,2	津田 洋子 講師	
		BIO 311 応用生物統計学特論		2		講義	1	c,d	火	1	宮田 敏 教授	
		BIO 501 統計モデル特論			1	講義 演習	1	a	火	3	松浦 正明 教授	
		BIO 562 データ解析特別演習			2	演習	1	c,d	火	2	松浦 正明 教授	
		BIO 321 臨床試験特論			1	講義	1	c,d	火	3	根本明日香 講師	
		BIO 511 カテゴリカルデータ解析特論			1	講義	1・2	d	月	4	宮田 敏 教授	
		BIO 341 社会調査データ解析特論			1	講義	1・2	a	火	4	宮田 敏 教授	
		BIO 563 社会調査データ解析特別演習			1	演習	1・2	a	火	5	宮田 敏 教授	
		BIO 611 疫学・生物統計学特殊研究 I		4		演習	1	通年			個別設定 各指導教員	
		BIO 612 疫学・生物統計学特殊研究 II		4		演習	2	通年				
		BIO 613 疫学・生物統計学特殊研究 III		4		演習	3	通年				
	産業環境保健学分野		OEH 321 産業保健学特論		2		講義 演習	1	c	月	1,2	福田 吉治 教授
		OEH 511 産業環境工学特論		1		講義	1	s	夏期		津田 洋子 講師	集中講義
		OEH 351 産業中毒学特論		1		講義	1	d	水	3,4	津田 洋子 講師	
		OEH 311 環境保健学特論 I			1	講義 演習	1	c	水	1,2	津田 洋子 講師	
		OEH 313 環境保健学特論 II			1	講義	1	d	水	1,2	津田 洋子 講師	
		OEH 611 産業環境保健学特殊研究 I		4		演習	1	通年			個別設定 各指導教員	
		OEH 612 産業環境保健学特殊研究 II		4		演習	2	通年				
		OEH 613 産業環境保健学特殊研究 III		4		演習	3	通年				
保健政策・医療管理学分野		HPM 511 保健政策学特論		1		講義	1	b	水	3,4	福田 吉治 教授	
		HPM 311 医療経済・経営学特論		3		講義 演習	1	b,c	月	3,4	中田 善規 教授	
		HPM 515 医療経済分析特論			1	講義	1	d	水	3,4	中田 善規 教授	
		HPM 341 地域保健学特論			1	講義 演習	1	b	火	1,2	高橋 謙造 教授	
		HPM 517 国際保健政策学特論			1	講義	1	c	火	4	高橋 謙造 教授	
		HPM 411 Seminar on Healthcare Management			1	講義	1・2	s	夏期		中田 義規 教授	集中講義
		HPM 421 Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society			1	講義 演習	1・2	s	夏期		井上まり子 准教授	集中講義
		HPM 611 保健政策・医療管理学特殊研究 I		4		演習	1	通年			個別設定 各指導教員	
		HPM 612 保健政策・医療管理学特殊研究 II		4		演習	2	通年				
		HPM 613 保健政策・医療管理学特殊研究 III		4		演習	3	通年				
特別講義		EPI 431~433 特別講義(疫学の展開 I~III)		1		講義	1	w	冬期		Murray Mittleman 客員教授	集中講義
		BIO 431~433 特別講義(生物統計学の展開 I~III)		1		講義	1	w	冬期		Garrett Fitzmaurice 客員教授	集中講義
		HBS 431~433 特別講義(社会行動科学の展開 I~III)		1		講義	1	w	冬期		Ichiro Kawachi 客員教授	集中講義
		OEH 431~433 特別講義(産業環境保健学の展開 I~III)		1		講義	1	w	冬期		Rose Goldman 客員教授	集中講義
		HPM 431~433 特別講義(保健政策・医療管理学の展開 I~III)		1		講義	1	w	冬期		Alastair Gray 客員教授	集中講義

D R P H



2020年度 公衆衛生学研究科 博士後期課程 時間割

		前期		後期		
曜日	時限	前半8週(a学期)	後半8週(b学期)	前半8週(c学期)	後半8週(d学期)	
		4/9(木)~6/10(水)	6/11(木)~8/7(金)	9/14(月)~11/9(月)	11/10(火)~12/25(金)	
月	1	9:00 10:30	医学基礎・臨床医学特論	産業保健学特論	リスク科学特論	
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35	医療経済・経営学特論		カテゴリカルデータ解析特論	
	4	14:50 16:20				
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				
火	1	9:00 10:30	産業環境保健学特論(※) 保健政策・医療管理学特論(※)	地域保健学特論	応用生物統計学特論	
	2	10:45 12:15			データ解析特別演習	
	3	13:05 14:35	統計モデル特論		臨床試験特論	
	4	14:50 16:20	社会調査データ解析特論		国際保健政策学特論	
	5	16:35 18:05	社会調査データ解析特別演習			
	6	18:20 19:35				
水	1	9:00 10:30	基礎生物統計学特論		環境保健学特論Ⅰ(※) リーダーシップ・マネジメント特論(※)	環境保健学特論Ⅱ(※) リーダーシップ・マネジメント特論(※)
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35	健康行動科学特論	健康行動科学特論(※) 保健政策学特論(※)		産業中毒学特論(※) 医療経済分析学特論(※)
	4	14:50 16:20	公衆衛生倫理学特論			
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				
木	1	9:00 10:30				
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35	基礎疫学特論		臨床疫学特論	
	4	14:50 16:20				
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				
金	1	9:00 10:30	特殊研究		特殊研究	
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35				
	4	14:50 16:20				
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				

(※) 隔週開講

夏期(s学期)		
集中講義	7~9月 (予定)	Seminar on Healthcare Management
		Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society
		産業環境工学特論
冬期(w学期)		
集中講義	1月 (予定)	特別講義(疫学の展開Ⅰ~Ⅲ)
		特別講義(生物統計学の展開Ⅰ~Ⅲ)
		特別講義(社会行動科学の展開Ⅰ~Ⅲ)
		特別講義(産業環境保健学の展開Ⅰ~Ⅲ)
		特別講義(保健政策・医療管理学の展開Ⅰ~Ⅲ)

※特別講義は年度により内容が異なることがあり、Ⅰ~Ⅲのいずれかを開講する。

## (5) 授業科目の概要

### ①共通科目

公衆衛生の5つのコア領域を統合し、実践と教育・研究を行う実施組織のリーダーとして適切かつ迅速に対応することのできる管理職・指導者としての能力等を修得するため、研究者・科学者としての思考、リーダーシップ、コミュニケーション能力等に優れていることが重要である。

そこで、選択する専門分野にかかわらず、共通科目として、「リーダーシップ・マネジメント特論」の必修科目を設ける。

また、公衆衛生学専門職学位（MPH）保有者以外の入学生に対しての配慮から、すなわち専門職学位課程との接続性の観点から「基礎疫学特論」、「基礎生物統計学特論」、「健康行動科学特論」、「保健政策・医療管理学特論」、「産業環境保健学特論」、「公衆衛生倫理学特論」の選択必修科目を設けている。さらに、医療系修士課程修了者以外の入学者に対しての配慮から「医学基礎・臨床医学特論」の選択必修科目を設けている。

### ②専門科目（疫学・生物統計学分野）

疫学・生物統計学は科学的実証研究のベーシックサイエンスとしてその両輪をなすものである。博士後期課程では、Change Agentとして、適切な疫学的研究デザインのもとに、そのデザインに応じた生物統計学の分析を行い、エビデンスを構築していくことができる人材の育成を目的とする。テクニカルサイエンスのもとに公衆衛生学分野の知識・技能を有し、研究者・科学者としての思考、リーダーシップに優れていること、交渉能力といったコミュニケーション能力が高いことが重要である。

そこで、本科目区分では、以下を教育目標として設定している。

- ・医学研究で用いるデータについて、適切な疫学的研究デザインとリスク指標の設定について説明し、データの獲得方法、研究の限界について説明できる。
- ・医学研究における疫学方法論と統計学の基礎と応用について説明できる。
- ・統計解析ソフトウェアを用いて実際のデータに適用し、統計モデルに基づいてデータ解析を行い、まとめた結果を説明することができる。
- ・医学研究論文や実践の場で、調査研究方法や論文作成をはじめとする疫学研究デザイン、統計学的研究手法や限界等について、批判的吟味ができる。
- ・医学研究で疫学デザインを適用し、統計解析手法を応用し、専門家と協働して問題解決ができる。

### ③専門科目（産業環境保健学分野）

博士後期課程の教育内容として、環境産業保健学分野の実践性からケーススタディを重視し、実例とその対処を考える中で公衆衛生学分野の知識・技能を有し、研究者・科学者としての思考、リーダーシップに優れていること、交渉にあたっての高いコミュニケーション能力があることが重要であり、講義および演習ではインターラクティブな教員・学生との連携に重点を置く。

本科目区分では、以下を教育目標として設定している。

- ・環境保健に関する海外の動向、国の法律と政策、地方自治体での実施について説明できる。
- ・環境曝露因子の測定を行い、その結果を法律や事業に活かすことができる。
- ・疫学研究等からのエビデンスをもとに産業保健・労働衛生活動を設計することができる。

- ・実際の現場において、管理者として産業保健サービスの提供ができる。
- ・人間工学、化学、中毒学等の原則を理解し、健康的な環境のためのリスクアセスメントとリスクマネジメントの方法を選択・提案できる。

#### ④専門科目（保健政策・医療管理学分野）

我が国では人口構造や経済環境が変化する中で、増加する一途の医療費の問題、社会保障制度など保健医療制度の見直しは喫緊の課題である。さらに、新興再興感染症や災害への取組などの危機管理の点からも保健医療政策が果たすべき役割は大きい。国際的にみても、現在は人口の高齢化や疫学転換と呼ばれる疾病構造の変化が起こっており、高齢社会や非感染性疾患の対策を国際機関も主導している。社会問題の中でも特に人々の生活や生命に直結する保健医療政策での取り組みは、人々への説明責任が問われる。その際に事実をデータで実証し、論理的に政策を検証して社会の変革に資する学術界の貢献に対する期待は高い。

医療管理学では、医療経済学、医療経営学の知識と共に、医療の質を向上させながらも経営の効率化、臨床データの有効活用、医療安全の確保等が求められている。これを実現するためには各種医療と経営情報を分析する能力と多業種に説明する力が求められる。

そこで、本科目区分では、以下を教育目標として設定している。

- ・保健政策の理論・モデル、根拠に基づく政策立案の基本的な考え方を理解・説明し、課題解決のための政策提言ができる。
- ・経済学的思考を公衆衛生に応用できる。
- ・科学的効率性測定方法を保健政策に応用できる。
- ・地域の保健・医療課題の解決実践案を案出し、利害関係者と協働して問題解決できる。
- ・国際保健課題に精通した実務家として活躍できる。

#### ⑤特殊研究

特殊研究は専門科目として設けられており、その目的は「現実の保健医療問題の改善・解決や人々の健康水準の向上を図るといった公衆衛生課題に対する具体的な成果を達成し、またそれを達成するための能力（コンピテンシー）、ならびに学位論文の作成能力を身に付ける」ことにある。すなわち、本科目では学位の申請に先立って申請者がそのための能力水準を満たしているかの評価を実施することを主眼としている。具体的には、科目責任者（＝研究指導教員）によりコンピテンシー基盤型教育と問題解決型アプローチの考え方に沿って在学期間中（1年次～3年次）継続的な指導が行われると共に、本研究科内に設置される内部審査会による計画審査と中間審査により学位申請前の評価が行われる。

そこで、本博士後期課程では、「疫学・生物統計学特殊研究」「産業環境保健学特殊研究」「保健政策・医療管理学特殊研究」の3つの科目を設けており、学生はいずれか1つの分野の特殊研究を選択（分野指定科目）する必要がある。

(6)カリキュラムマップ(学位授与方針と開講科目との対応関係)

(公衆衛生学研究科 博士後期課程)

ディプロマポリシー(DP)

公衆衛生学研究科博士後期課程は、公衆衛生学研究科の目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力の獲得を必須のものとする。加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネージメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。従って、本公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻の博士後期課程においては、そのような上級管理職・上級指導者という観点から以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

DP1 公衆衛生の実際の場合における問題解決のために公衆衛生の5つのコア領域(疫学、生物統計学、社会行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学)の総合的能力を持ち、分野横断的な組織や活動を率いる能力がある。

DP2 変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価することのできる能力がある。

DP3 公衆衛生の実践において指導的立場の専門家に求められるリーダーシップ、マネージメント能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシー(別記)を有している。

DP4 人々の命を守り健康を増進させるために、そして健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決を行い、その活動を統括指導する能力を有している。

DP5 身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。

DP6 グローバルな視点をもって指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。

DP7 上記1から6を通じて、社会や組織、保健医療課題の変化に貢献しうる総合的な能力と資質を培っている。

科目	分野	授業科目の名称	単位数			配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			必修	選必	選択								
共通科目		HPM 314 リーダーシップ・マネジメント特論	1			1	○	△	◎	◎	○	○	○
		EPI 301 基礎疫学特論	4			1	◎	◎	△	△	△	△	△
		BIO 301 基礎生物統計学特論	4			1	◎	◎	○	○	△	△	△
		HBS 301 健康行動科学特論	2			1	◎	○	○	○	△	△	△
		HPM 303 保健政策・医療管理学特論	1			1	◎	○	◎	◎	○	○	△
		OEH 301 産業環境保健学特論	1			1	◎	○	○	○	○	○	△
		I D 301 公衆衛生倫理学特論	1			1	○	△	◎	○	○	○	△
		I D 111 医学基礎・臨床医学特論			2	1	○	○	○	○	○	○	○
専門科目	疫学・生物統計学分野	EPI 321 臨床疫学特論		2		1	○	◎	△	△	△	△	△
		EPI 351 リスク科学特論			1	1	○	◎	○	◎	◎	○	△
		BIO 311 応用生物統計学特論		2		1	◎	◎	○	○	○	○	△
		BIO 501 統計モデル特論		1	1	○	◎	◎	○	○	△	△	△
		BIO 562 データ解析特別演習		2	1	○	◎	◎	○	○	△	△	△
		BIO 321 臨床試験特論		1	1	○	◎	◎	○	○	△	△	△
		BIO 511 カテゴリカルデータ解析特論		1	1・2	○	◎	◎	○	○	△	△	△
		BIO 341 社会調査データ解析特論		1	1・2	○	◎	◎	○	○	△	△	△
		BIO 563 社会調査データ解析特別演習		1	1・2	○	◎	◎	○	○	△	△	△
		BIO 611 疫学・生物統計学特殊研究 I	4		1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	BIO 612 疫学・生物統計学特殊研究 II	4		2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	BIO 613 疫学・生物統計学特殊研究 III	4		3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	産業環境保健学分野	OEH 321 産業保健学特論		2		1	◎	○	○	○	○	○	△
		OEH 511 産業環境工学特論		1		1	◎	○	○	△	○	○	△
		OEH 351 産業中毒学特論		1		1	△	◎	△	△	△	△	△
		OEH 311 環境保健学特論 I			1	1	○	○	○	○	○	○	△
		OEH 313 環境保健学特論 II			1	1	○	○	○	○	○	○	△
		OEH 611 産業環境保健学特殊研究 I	4		1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
OEH 612 産業環境保健学特殊研究 II		4		2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
OEH 613 産業環境保健学特殊研究 III		4		3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
保健政策・医療管理学分野	HPM 511 保健政策学特論		1		1	◎	○	◎	◎	○	○	△	
	HPM 311 医療経済・経営学特論		3		1	◎	○	◎	○	○	○	△	
	HPM 515 医療経済分析特論		1	1	○	◎	◎	○	○	○	○	△	
	HPM 341 地域保健学特論		1	1	○	○	◎	◎	○	○	○	△	
	HPM 517 国際保健政策学特論		1	1	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	△	
	HPM 411 Seminar on Healthcare Management		1	1・2	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	△	
	HPM 421 Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society		1	1・2	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	△	
	HPM 611 保健政策・医療管理学特殊研究 I	4		1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	HPM 612 保健政策・医療管理学特殊研究 II	4		2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
HPM 613 保健政策・医療管理学特殊研究 III	4		3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
特別講義	EPI 431~433 特別講義(疫学の展開 I~III)	1		1	◎	◎	○	○	△	◎	△	△	
	BIO 431~433 特別講義(生物統計学の展開 I~III)	1		1	◎	◎	○	○	△	◎	△	△	
	HBS 431~433 特別講義(社会行動科学の展開 I~III)	1		1	◎	○	○	○	◎	◎	△	△	
	OEH 431~433 特別講義(産業環境保健学の展開 I~III)	1		1	◎	○	○	○	△	◎	△	△	
	HPM 431~433 特別講義(保健政策・医療管理学の展開 I~III)	1		1	◎	○	○	○	△	◎	△	△	

注) ◎関連大、○関連中、△関連小

D R I P I

DrPH

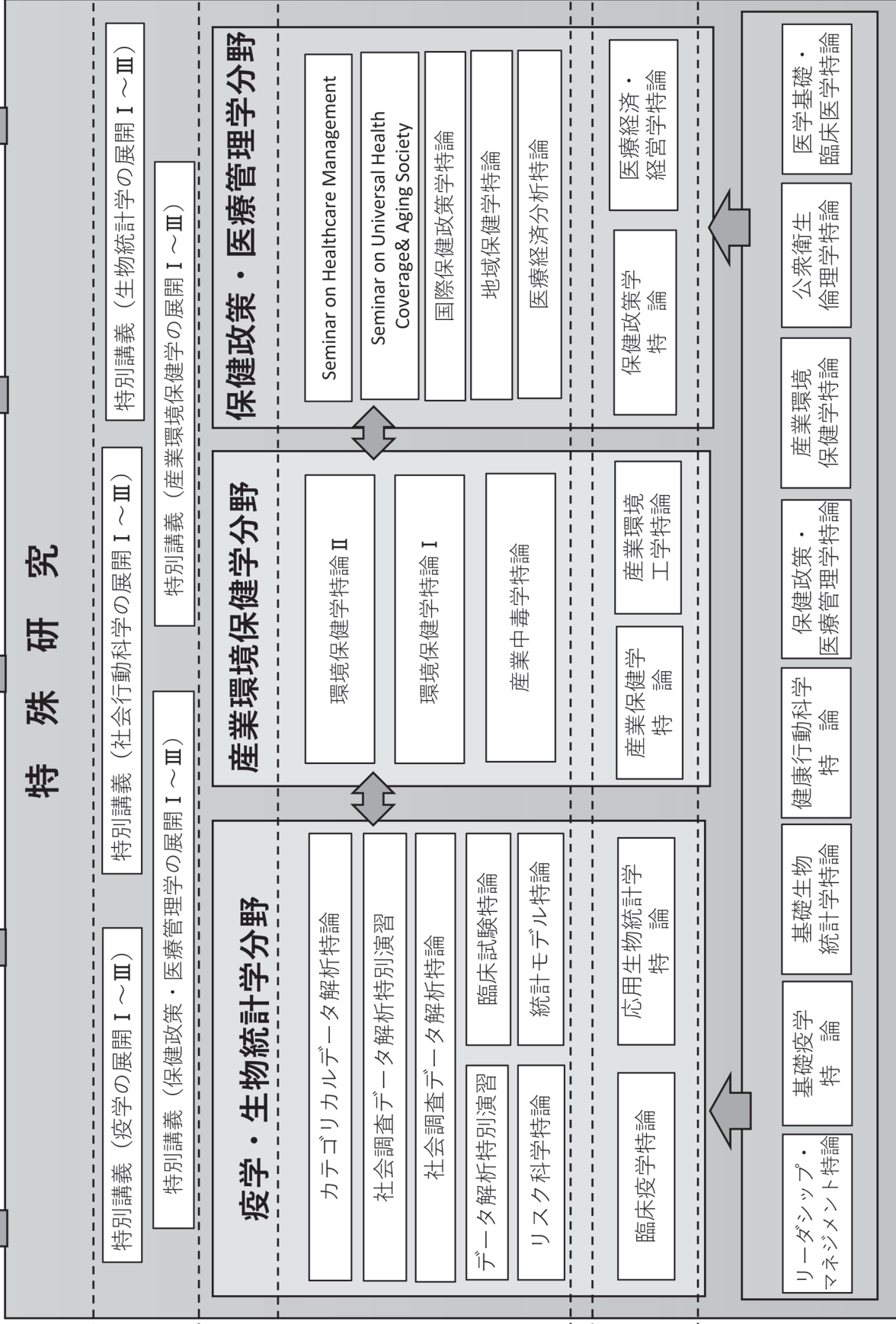
DP 1  
コア領域の統合

DP 2  
科学的根拠

DP 3  
リーダーシップ / マネジメント / コミュニケーション能力

DP 4・5  
社会全体の活動の  
統括指導

DP 6  
グローバルな視点



3年

2年

1年

特別講義

選択科目

選択必修科目

共通科目

## (7) 教員一覧 (博士後期課程)

### ◆専任教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
福田 吉治	教授 (研究科長)	共通科目	健康行動科学特論
			保健政策・医療管理学特論
			産業環境保健学特論
			公衆衛生倫理学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
			リスク科学特論
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
			産業中毒学特論
			産業環境保健学特殊研究
保健政策・医療管理学分野	保健政策学特論		
石川ひろの	教授	共通科目	リーダーシップ・マネジメント特論
			健康行動科学特論
			公衆衛生倫理学特論
		疫学・生物統計学分野	疫学・生物統計学特殊研究
大脇 和宏	教授	共通科目	基礎疫学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
			疫学・生物統計学特殊研究
高橋 謙造	教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
		保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論
			国際保健政策学特論
			Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society
			保健政策・医療管理学特殊研究
中田 善規	教授	共通科目	リーダーシップ・マネジメント特論
			保健政策・医療管理学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
			医療経済分析特論
			Seminar on Healthcare Management
			保健政策・医療管理学特殊研究
松浦 正明	教授	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
			統計モデル特論
			データ解析特別演習
			疫学・生物統計学特殊研究
宮田 敏	教授	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
			データ解析特別演習
			カテゴリカルデータ解析特論
			社会調査データ解析特論
			社会調査データ解析特別演習

氏名	役職	科目区分	授業科目
井上まり子	准教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
			公衆衛生倫理学特論
		保健政策・医療管理学分野	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society
			保健政策・医療管理学特殊研究
崎坂香屋子	准教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
		保健政策・医療管理学分野	保健政策・医療管理学特殊研究
金森 悟	講師	産業環境保健学分野	産業環境保健学特殊研究
桑原 恵介	講師	共通科目	基礎疫学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
			疫学・生物統計学特殊研究
産業環境保健学分野	産業保健学特論		
渋谷 克彦	講師	共通科目	産業環境保健学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
保健政策・医療管理学分野	保健政策学特論		
津田 洋子	講師	共通科目	産業環境保健学特論
		疫学・生物統計学分野	リスク科学特論
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
			産業環境工学特論
			産業中毒学特論
			環境保健学特論Ⅰ
			環境保健学特論Ⅱ
産業環境保健学特殊研究			
根本明日香	講師	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
			統計モデル特論
			データ解析特別演習
			臨床試験特論
疫学・生物統計学特殊研究			
加藤 美生	助教	共通科目	リーダーシップ・マネジメント特論
			保健政策・医療管理学特論
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
			産業環境保健学特殊研究
保健政策・医療管理学分野	Seminar on Healthcare Management		

◆他学部（兼担）

氏名	役職	科目区分	授業科目
金城謙太郎	教授	共通科目	医学基礎・臨床医学特論
宮川 宗之	教授	産業環境保健学分野	産業中毒学特論
山本 秀樹	教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
渡邊 清高	准教授	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
松田 彩子	助教	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	データ解析特別演習
大嶽 浩司	客員教授	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論

## ◆非常勤教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
Murray Mittleman	客員教授	疫学・生物統計学分野	特別講義（疫学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Garrett Fitzmaurice	客員教授	疫学・生物統計学分野	特別講義（生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Ichiro Kawachi	客員教授	疫学・生物統計学分野	特別講義（社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Rose Goldman	客員教授	産業環境保健学分野	特別講義（産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Alastair Gray	客員教授	保健政策・医療管理学分野	特別講義（保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ）
井口 直樹	客員教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
小木 和孝	客員教授	産業環境保健学分野	産業保健学特論
丹後 俊郎	客員教授	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
中尾 睦宏	客員教授	共通科目	健康行動科学特論
矢野 榮二	客員教授	共通科目	基礎疫学特論
		疫学・生物統計学分野	リスク科学特論
山岡 和枝	客員教授	共通科目	基礎疫学特論
			基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
			統計モデル特論
			データ解析特別演習
			カテゴリカルデータ解析特論
			社会調査データ解析特論
			社会調査データ解析特別演習
疫学・生物統計学特殊研究			
吉川 徹	客員准教授	産業環境保健学分野	産業保健学特論
石倉 恭子	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業保健学特論
奥原 剛	非常勤講師	共通科目	リーダーシップ・マネジメント特論
神山 宣彦	非常勤講師	産業環境保健学分野	環境保健学特論Ⅱ
小林 廉毅	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
近藤 久禎	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	保健政策学特論
宋 裕姫	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業保健学特論
杉本 九実	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業保健学特論
瀧本 禎之	非常勤講師	共通科目	公衆衛生倫理学特論
田村 桂一	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
坪倉 正治	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論
中澤 栄輔	非常勤講師	共通科目	公衆衛生倫理学特論
中澤 達	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
中原 浩彦	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業環境工学特論
			環境保健学特論Ⅰ
成松 宏人	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
野田信一郎	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論
橋本 晴男	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業環境工学特論
橋本 英樹	非常勤講師	共通科目	保健政策・医療管理学特論
長谷川貴大	非常勤講師	疫学・生物統計学分野	臨床試験特論
堀内 清華	非常勤講師	疫学・生物統計学分野	社会調査データ解析特論
			社会調査データ解析特別演習
		保健政策・医療管理学分野	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society
			保健政策・医療管理学特殊研究
八幡裕一郎	非常勤講師	疫学・生物統計学分野	リスク科学特論
山本 真	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論



## (8) 履修の手引き

### 1. 履修の申込みと変更の届け出、学位申請等

#### (1) 履修の申込み

大学院生は毎年、4月に、研究指導教員のアドバイスを受けて、その年度内に履修を希望する科目を選び、所定の用紙（履修届）で受講を申し込むことが必要である。

#### (2) 履修科目の変更

履修科目を変更する場合（年度始めに受講申請した科目の受講を取り止める場合、および、新たな科目の履修を希望する場合）には、研究指導教員と相談して、所定の用紙（履修変更届）で届け出を行う必要がある。なお、年次途中で新たな科目の履修を希望する場合には、その科目の履修が可能かどうか、科目責任者に事前に問い合わせる（すでに定員を満たしている場合や、希望者がおらず講義が予定されていない場合）。

#### (3) 学位申請

大学院生は第3学年の11月中旬までに、学位申請書類の提出が必要である。

ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年間の在学後に学位授与を申請することができる。

なお、具体的な学位申請の手続き内容やスケジュール、学位授与までの流れ等の詳細に関しては、第3学年の5月中旬に対象者に対して別途ガイダンスが行われる。

#### (4) 休学について

疾病その他やむを得ない事由のため休学しようとする者は、アカデミックアドバイザーに相談の上、その事由を証明する書類を添え、所定の用紙にて届け出を行う。

1. 休学は事情により認める。
2. 休学の期間は休学願が提出された学年末までの1年以内とする。ただし、やむを得ない事由がある場合は、さらに1年以内に限り延長を認めることがある。
3. 休学できる期間は、通算して2年を限度とする。
4. 休学期間は、在学期間に算入しない。
5. 休学事由が解消され、復学しようとする者は、その事由を証明する書類を添えて、所定の復学願を提出して許可を得るものとする。

なお、在学期間は6年を超えることはできない。

※ 上記（1）～（4）の届け出・申請の提出先は事務部教務課（大学院担当）となる。

#### (5) 科目の聴講について

実習を除くすべての科目で単位履修を目的とせず聴講として講義を受けることができる。但し、科目責任者の許可を事前に得ること。

## 2. 授業科目の履修

### (1) 履修の概略

①公衆衛生学に関する専門職学位課程または修士課程出身者 および医療系出身者(※1)	原則として、1年目に必修7科目と分野別の選択必修科目を履修し、1年目後期からは学位論文作成のための研究活動に集中する。
②非医療系出身者	原則として、1年目に必修科目7科目と共通科目の「医学基礎・臨床医学特論」(選択科目)、分野別の選択必修科目を履修し、以降は学位論文作成のための研究活動に集中する。

(※1) 医療系出身者とは、医療系国家資格(医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士、等)の各免許を取得するための所定の課程を修了し、かつ修士(および専門職学位)課程を修了した者(6年制課程修了者はここでいう修士課程修了者に含まれる)。

### (2) 修了要件(=学位授与の要件)

- i) 共通科目として必修7科目(14単位)を取得すること。
- ii) 「疫学・生物統計学」、「産業環境保健学」、「保健政策・医療管理学」の3分野から1分野を選択し、該当分野の選択必修科目16単位を取得すること。
- iii) 選択科目または他の分野の選択必修科目(特殊研究は除く)から6単位以上を取得すること。
- iv) 特別講義5科目の中から1科目1単位以上を修得すること。

上記の合計37単位以上を取得すれば卒業要件を満たすことになり、公衆衛生の実践において求められる職業意識と倫理、批判的分析、地域・文化交流、コミュニケーション、運営管理、リーダーシップ、アドボカシー、国際通用性のDrPHコアコンピテンシーを有しているとみなされ、その上で学位論文審査と学位申請者に対する最終試験に合格すれば学位授与の要件が満たされる。

(履修科目の登録上限単位数)

履修科目の登録の上限は、年間30単位まで(特殊研究を除く)とする。ただし、成績優秀者には、これを超えた履修を認めることがある。

**注意** 2020年度入学以外の者は、入学年度の修了要件を確認のこと。

### ◆共通科目

リーダーシップ・マネジメント特論	1単位	必修
基礎疫学特論	4単位	必修
基礎生物統計学特論	4単位	必修
健康行動科学特論	2単位	必修
保健政策・医療管理学特論	1単位	必修
産業環境保健学特論	1単位	必修
公衆衛生倫理学特論	1単位	必修
医学基礎・臨床医学特論	2単位	選択 (※1)

(※1) 教育的観点から非医療系学部出身者は「医学基礎・臨床医学入門」を修得すること

◆専門科目3分野の中から1分野を選択し、選択した分野の選択必修科目16単位を修得すること。

◇専門科目（疫学・生物統計学分野）

臨床疫学特論	2単位	選択必修
応用生物統計学特論	2単位	選択必修
疫学・生物統計学特殊研究Ⅰ	4単位	選択必修
疫学・生物統計学特殊研究Ⅱ	4単位	選択必修
疫学・生物統計学特殊研究Ⅲ	4単位	選択必修

◇専門科目（産業保健・環境保健学分野）

産業保健学特論	2単位	選択必修
産業環境工学特論	1単位	選択必修
産業中毒学特論	1単位	選択必修
産業環境保健学特殊研究Ⅰ	4単位	選択必修
産業環境保健学特殊研究Ⅱ	4単位	選択必修
産業環境保健学特殊研究Ⅲ	4単位	選択必修

◇専門科目（保健政策・医療管理学分野）

保健政策学特論	1単位	選択必修
医療経済・経営学特論	3単位	選択必修
保健政策・医療管理学特殊研究Ⅰ	4単位	選択必修
保健政策・医療管理学特殊研究Ⅱ	4単位	選択必修
保健政策・医療管理学特殊研究Ⅲ	4単位	選択必修

◆特別講義

特別講義（疫学の展開）	1単位	選択必修
基礎疫学特論	1単位	選択必修
基礎生物統計学特論	1単位	選択必修
健康行動科学特論	1単位	選択必修
保健政策・医療管理学特論	1単位	選択必修

特別講義5科目の中から1科目1単位以上を修得すること。

### 3. 成績評価およびGPA制度

授業科目の成績評価については、試験・レポート等（筆記試験・口述試験・実技試験・レポート・発表内容）を中心として評価するが、科目によっては講義への参加（出席・討論への参加）等の学習状況等を加味して評価する。なお、再試験・レポート再提出の場合は減点の対象とする。学外の実習に参加した場合については、実習先の外部評価も成績評価に反映させる。

成績評価制度として、GPA（Grade Point Average）制度を導入している。この制度の導入の趣旨は、1.キャンパスとして統一した基準を作成すること、2.公平性に優れた基準であること、3.国際的に通用する基準であることとし、学生諸君の学修の成果を、GPAという客観的な数値で評価するものである。

また、この制度は、欧米の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠しており、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職等の際し、学力を証明する指標として、海外でも通用する成績評価制度となっています。

#### (1) 成績等の表示および成績評価基準

区分	評価	GPA	成績評価基準	評価内容	(英文内容)
合格	S	4.0	100～90点	特に優れた成績を表す	(Excellent)
	A	3.0	89～80点	優れた成績を表す	(Good)
	B	2.0	79～70点	妥当と認められる成績を表す	(Satisfactory)
	C	1.0	69～60点	合格と認められる最低限の成績を表す	(Pass)
不合格	D	0.0	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表す	(Failure)
対象外	N	—	—	他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したことを表す (既修得単位認定)	(Credits Transferred)

#### (2) GPAの算出方法

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{修了要件単位数における総履修登録単位数 (Dの単位数を含む)}}$$

GPAスコアは2.5以上を確保することが望ましく、1.0以下の者には退学勧告をする場合があります。

#### (3) 成績評価に対する質問・異議申出

1. 成績評価に対して質問がある場合は当該科目の担当教員（科目責任者）に質問をする。
2. 成績評価に対して異議がある場合は内容および理由をできる限り詳細に記入し（様式任意）事務部教務課大学院担当まで提出する。
3. 成績評価に対しての質問・異議申出は成績発表後の2週間以内まで受付ける。期間外またはやむを得ない事由で成績通知書を受領しなかった場合も、期間の延長は認めない。

### 4. 海外提携大学との交流及び留学支援

#### (1) 成績優秀者に対する留学推薦

成績優秀者に対しては本人が留学を希望する場合、一定の選考基準に基づきハーバード大学公衆衛生大学院等に推薦し、そこでの勉学・研究・学位取得を援助するシステムを準備している。研究指導教員等との協議を経て研究科長による推薦を行う。

2020年度 公衆衛生学研究科 履修届

博士後期課程  
学籍番号

提出日 2020年4月 日

学生氏名

研究指導教員  
職位

氏名

科目区分	分野	Code		科目名	単位数			登録	登録単位	特記事項
					必修	選必	選択			
共通科目		HPM	314	リーダーシップ・マネジメント特論	1				0	
		EPI	301	基礎疫学特論	4				0	
		BIO	301	基礎生物統計学特論	4				0	
		HBS	301	健康行動科学特論	2				0	
		HPM	303	保健政策・医療管理学特論	1				0	
		OEH	301	産業環境保健学特論	1				0	
		ID	301	公衆衛生倫理学特論	1				0	
		ID	111	医学基礎・臨床医学特論			2		0	
専門科目	疫学・生物統計学分野	EPI	321	臨床疫学特論		2			0	
		EPI	351	リスク科学特論			1		0	
		BIO	311	応用生物統計学特論		2			0	
		BIO	501	統計モデル特論			1		0	
		BIO	562	データ解析特別演習			2		0	
		BIO	321	臨床試験特論			1		0	
		BIO	511	カテゴリカルデータ解析特論			1		0	
		BIO	341	社会調査データ解析特論			1		0	
		BIO	563	社会調査データ解析特別演習			1		0	
		BIO	611	疫学・生物統計学特殊研究Ⅰ		4			0	
		BIO	612	疫学・生物統計学特殊研究Ⅱ		4			0	
		BIO	613	疫学・生物統計学特殊研究Ⅲ		4			0	
	産業環境保健学分野	OEH	321	産業保健学特論		2			0	
		OEH	511	産業環境工学特論		1			0	
		OEH	351	産業中毒学特論		1			0	
		OEH	311	環境保健学特論Ⅰ			1		0	
		OEH	313	環境保健学特論Ⅱ			1		0	
		OEH	611	産業環境保健学特殊研究Ⅰ		4			0	
		OEH	612	産業環境保健学特殊研究Ⅱ		4			0	
	保健政策・医療管理学分野	HPM	511	保健政策学特論		1			0	
		HPM	311	医療経済・経営学特論		3			0	
		HPM	515	医療経済分析特論			1		0	
		HPM	341	地域保健学特論			1		0	
		HPM	517	国際保健政策学特論			1		0	
		HPM	411	Seminar on Healthcare Management			1		0	
		HPM	421	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society			1		0	
		HPM	611	保健政策・医療管理学特殊研究Ⅰ		4			0	
		HPM	612	保健政策・医療管理学特殊研究Ⅱ		4			0	
		HPM	613	保健政策・医療管理学特殊研究Ⅲ		4			0	
	特別講義	EPI	431~433	特別講義(疫学の展開Ⅰ~Ⅲ)		1			0	Ⅰ~Ⅲいずれかを開講
BIO		431~433	特別講義(生物統計学の展開Ⅰ~Ⅲ)		1			0	Ⅰ~Ⅲいずれかを開講	
HBS		431~433	特別講義(社会行動科学の展開Ⅰ~Ⅲ)		1			0	Ⅰ~Ⅲいずれかを開講	
OEH		431~433	特別講義(産業環境保健学の展開Ⅰ~Ⅲ)		1			0	Ⅰ~Ⅲいずれかを開講	
HPM		431~433	特別講義(保健政策・医療管理学の展開Ⅰ~Ⅲ)		1			0	Ⅰ~Ⅲいずれかを開講	
総単位数								0		

※提出は4月17日(金)まで【提出ボックスNo.39】

研究科長	教務部長

## 履修科目変更届 (願)

20 年 月 日

公衆衛生学研究科長 殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ (印)

研究指導教員

職 位 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ (印)

下記のとおり履修科目の変更を申請いたします。

科目区分	科目名称	単位数	変更後 (該当に○印)
1			履修 ・ 取り消し
2			履修 ・ 取り消し
3			履修 ・ 取り消し
4			履修 ・ 取り消し
5			履修 ・ 取り消し
6			履修 ・ 取り消し
7			履修 ・ 取り消し
8			履修 ・ 取り消し

事務部記入欄

受付日:

処理日:

--	--

公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻 博士後期課程

## (9) 学位授与

本博士後期課程の教育目的に沿って、現実の保健医療問題の改善・解決や人々の健康水準の向上を図るという公衆衛生課題に対する具体的な成果を達成し、また、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有すると認められた者に「博士（公衆衛生学）」の学位を授与する。

学位を申請できる者は、第3学年に在学し所要の単位を修得（見込みを含む）している者とする。ただし、優れた研究業績をあげた者については、在学年限に関わらず学位を申請することができる。また、満期退学した後に学位申請する場合は、満期退学後3年以内であれば随時学位を申請することができる。

学位審査は、審査委員会により学位論文の審査と最終試験により実施される。

本博士後期課程において学位論文とは、公衆衛生課題の対策に向けた計画（以下、「プロジェクト」という）の策定ならびにこれについての調査・研究、さらに可能な場合は部分的な対策実施を行い、これら全ての活動の結果をまとめた成果報告書をいう。審査のため必要があるときは、学位論文の一部としてプロジェクトの成果に関連する参考論文、さらに学位論文とは別に参考資料の提出も求められる。

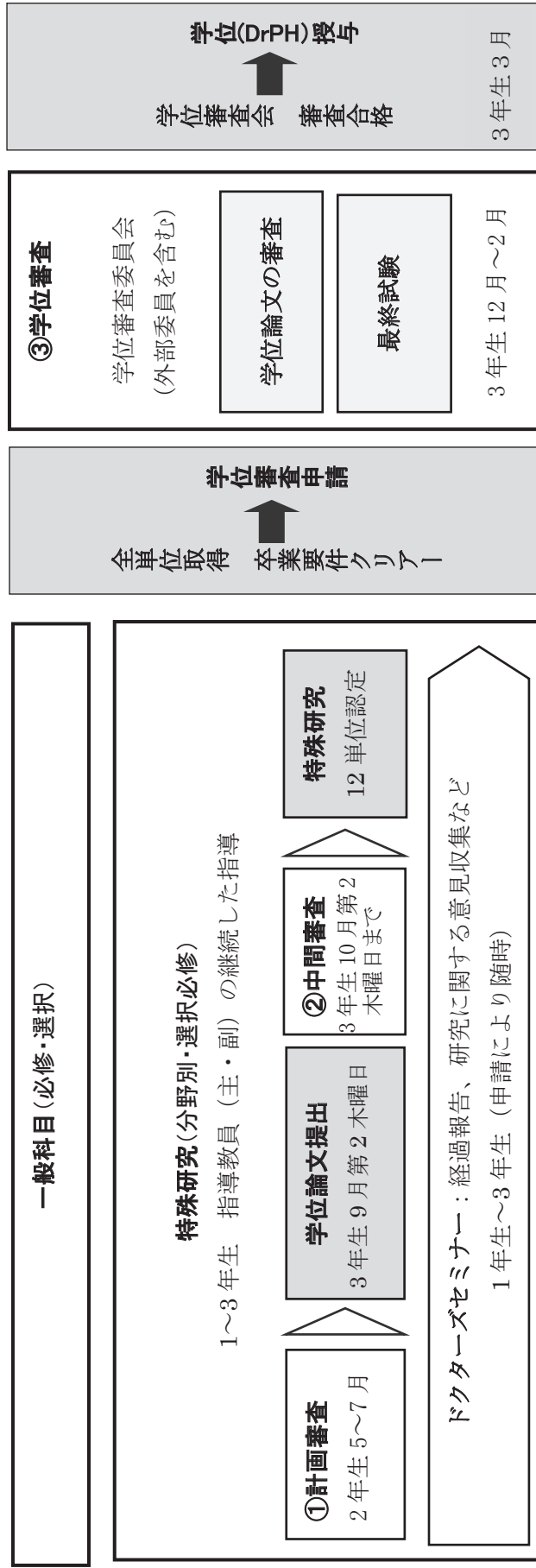
学位論文の審査は、学位申請者がその専攻分野において、プロジェクトと具体的な成果をまとめた成果報告書が、学位申請者自らの計画と調査・研究、対策実施に基づいたものであることを確認するとともに、本学が博士（公衆衛生学）の学位を授与するにふさわしい、成果の達成状況や、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有することを確認するものである。最終試験は、学位論文を中心とし、審査委員全員により原則として口答（必要に応じて筆答）にて行い、その判定結果は可または否のいずれかとなる。

なお、特殊研究の単位は、内部審査会による計画審査および中間審査（学内最終審査）に合格することで認められる。これらの審査は、特殊研究セミナーとして公開で行われる。加えて、プロジェクトの進捗状況と学習到達度を確認するため、経過報告を特殊研究セミナーとして実施する。原則として、少なくとも年に1回、計画審査での報告、中間審査（学内最終審査）での報告または経過報告を行うものとする。

詳細については、巻末の学位運用規程を参照のこと。

なお、学位申請の手続きや提出書類、論文作成のための指導方法とその過程、評価内容、および公表方法等については、学期中の適切な時期に院生向けに別途ガイダンスを実施する。

学位授与までの流れ



標準年限3年

詳細については、別途ガイダンスを実施します。



## (10) その他留意事項

### 1. 事故等について

実習においては指導教員または実習先の担当者の指導のもと、十分留意の上で行う。

#### ①. 万が一、事故等が生じた場合

- ・通学中や、実習先への移動中に転倒してケガをした場合等
- ・炎天下での実習中に熱中症となり入院した場合等

A 次のいずれかまで連絡する。

- ・帝京大学 公衆衛生学研究科 受付 TEL 03-3964-2108
- ・帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課大学院担当 TEL 03-3964-3294 (直通)

B 事故の報告書の提出(様式任意)が必要である。

#### ②. 入学時に加入している保険について

- ・「学研災」・・・学生教育研究災害傷害保険
- ・「学研賠」・・・学研災付帯賠償責任保険
- ・「こども保険」・・・こども総合保険(感染予防等)

#### ③. 海外への実習の場合

治療費等は立替払いである。保険請求の際は必ず領収書・診断書等を提出する。英文の場合は日本語訳が必要となる。あくまでの実習中の事故等が対象である。

通常の海外旅行保険への申し込みを勧める。

取扱代理店：株式会社 帝京サービス 保険部

帝京大学 大学棟 3号館 2階 Tel 03-5943-1988

### 2. 交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合、または台風、大雪等でキャンパスの在る地域に、暴風警報(大雨、洪水警報のみは除く)、大雪警報が発令された場合は、以下の通り休講とする。授業、実習が開始されてから発令された場合は、大学、実習先の指示に従う。

#### ①. 埼京線、山手線、京浜東北線のすべてが不通となった場合

暴風警報または大雪警報が、**東京 23区**に発令された場合

運転再開の時刻、警報の解除時刻	授業、実習の取扱い
午前 6 時 00 分まで	平常どおり
午前 6 時 00 分から午前 10 時 00 分まで	3 時限目より授業を行う
午前 10 時 00 分以降	1 日休講

- ②. 上記以外の交通機関の不通、警報が発令されている地域があっても、休講とはしない。登校不可能な状態の場合は必ず大学あるいは実習先に連絡し、指示を受ける。

### 3. 学費納入について

1. 所定の学費は、前期・後期の二期に分け、前期は5月末日まで、後期は10月末日まで、それぞれ定められた期限内に納入する。詳細は、大学から送付される振込用紙と案内を参照する。
2. 期限内に納入することが困難な場合は、納入期限までに所定の学納金延納願を事務部教務課大学院担当に提出し、許可を得る。
3. 留年した場合、及び復学した場合の学納金については、新たに定められた金額を納入する。
4. 在学中に授業料、その他納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納入する。
5. 休学中及び停学中であっても学費は全額納入しなければならない。ただし、4月末日までに休学願を提出した者は当該年度の前期分・後期分を、10月末日までに休学願を提出した者は当該年度の後期分を各々半額とする。
6. 既納の学費は如何なる理由があっても返還しない。

### 4. オフィスアワー

本学には、オフィスアワー制度が設けられている。オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修、学業成績あるいは学生生活についての相談を受けながら、コミュニケーションを深め、アドバイスすることによって、より良い大学生活を送ってもらうために設けられた、授業以外の時間のことをいう。相談時間については、別途掲示などで周知するが、該当する時間であっても、出張や会議等の理由から教員が不在となる場合がある。

### 5. 事務取扱時間

平日： 8:45 ～ 16:45

土曜日： 8:45 ～ 12:00

※祝日、創立記念日、年末年始（12/29～1/3）、

入学試験、オープンキャンパス等の学校行事を除く

大学院公衆衛生学研究科 時間割表

2020年度

博士後期課程

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木			
4月			オリエンテーション	入学式										医学基礎	政策管理	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物	基礎生物			医学基礎	政策管理					
														医学基礎	政策管理	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物	基礎生物			医学基礎	政策管理					
															統計モデル	健康行動	基礎疫学					統計モデル	健康行動	基礎疫学				統計モデル	健康行動				
															調査特論	公衛倫理	基礎疫学					調査特論	公衛倫理	基礎疫学				調査特論	公衛倫理				
															調査演習							調査演習							調査演習				
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
5月							学ガイダンス							医学基礎	産環特論	基礎生物				医学基礎	政策管理	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物				
														医学基礎	産環特論	基礎生物				医学基礎	政策管理	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物				
								基礎疫学							統計モデル	健康行動	基礎疫学					統計モデル	健康行動	基礎疫学				統計モデル	健康行動				
								基礎疫学							調査特論	公衛倫理	基礎疫学					調査特論	公衛倫理	基礎疫学				調査特論	公衛倫理				
															調査演習							調査演習						調査演習					
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火			
6月		医学基礎	政策管理	基礎生物																													
		医学基礎	政策管理	基礎生物																													
		統計モデル	健康行動	基礎疫学																													
		調査特論	公衛倫理	基礎疫学																													
		調査演習																															
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
7月		基礎生物		Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.																					
		基礎生物		Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.																					
		健康行動	基礎疫学					Uni. Heal.																									
		健康行動	基礎疫学					Uni. Heal.																									
				Teikyo International Summer School 2020 (第4回 帝京国際サマースクール)																													
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		
8月																																	
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水			
9月																																	

大学院公衆衛生学研究科 時間割表

2020年度

博士後期課程

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
10月					産業保健	応用生物	環境保健Ⅰ					産業保健	応用生物	リーダーシップ					産業保健	応用生物				環境保健Ⅰ		産業保健	応用生物	リーダーシップ		応用生物		
					産業保健	データ解析	環境保健Ⅰ					産業保健	データ解析	リーダーシップ					産業保健	データ解析				環境保健Ⅰ		産業保健	データ解析	リーダーシップ		データ解析		
	臨床疫学				経済経営	臨床試験			臨床疫学				経済経営	臨床試験	臨床疫学					経済経営	臨床試験				臨床疫学		経済経営			臨床試験	臨床疫学	
	臨床疫学				経済経営	国際政策			臨床疫学				経済経営	国際政策	臨床疫学					経済経営	国際政策				臨床疫学		経済経営	国際政策		臨床疫学	国際政策	
11月		産業保健				応用生物	環境保健Ⅰ			産業保健	応用生物	リーダーシップ	リスク科学					応用生物	環境保健Ⅱ		リスク科学				応用生物	リーダーシップ						
		産業保健				データ解析	環境保健Ⅰ				データ解析	リーダーシップ	リスク科学						データ解析	環境保健Ⅱ		リスク科学			データ解析	リーダーシップ						
	経済経営				臨床疫学	臨床試験					産業中毒	臨床疫学							経済分析	臨床疫学					産業中毒	臨床疫学	臨床疫学					
	経済経営				臨床疫学	国際政策					産業中毒	臨床疫学				ガテコリカル				経済分析	臨床疫学					産業中毒	臨床疫学	臨床疫学			ガテコリカル	
	経済経営															ガテコリカル															ガテコリカル	
12月	応用生物	環境保健Ⅱ				リスク科学	応用生物	環境保健Ⅱ						応用生物	リーダーシップ			リスク科学						応用生物	環境保健Ⅱ							
	データ解析	環境保健Ⅱ				リスク科学	データ解析	環境保健Ⅱ						データ解析	リーダーシップ			リスク科学						データ解析	環境保健Ⅱ							
	臨床試験	経済分析	臨床疫学	産業中毒					経済分析	臨床疫学					産業中毒	臨床疫学								経済分析	臨床疫学							
		経済分析	臨床疫学	産業中毒					カテコリカル						カテコリカル	産業中毒	臨床疫学							カテコリカル	経済分析							
1月	Harvard Special Session 2021 (第10回ハーバード特別講義)																															
2月												リーダーシップ	リーダーシップ・マネジメント特論						公衆衛生	公衆衛生倫理学特論					データ解析	データ解析特別演習						
												基礎疫学	基礎疫学特論						医学基礎	医学基礎・臨床医学特論					臨床試験	臨床試験特論						
												基礎生物	基礎生物統計学特論						臨床疫学	臨床疫学特論					カテコリカル	カテコリカルデータ解析特論						
												健康行動	健康行動科学特論						リスク科学	リスク科学特論					調査特論	社会調査データ解析特論						
												政策管理	保健政策・医療管理学特論						応用生物	応用生物統計学特論					調査演習	社会調査データ解析特別演習						
												産環特論	産業環境保健学特論						統計モデル	統計モデル特論					産業保健	産業保健学特論						
3月												産環工学	産業環境工学特論						経済分析	医療経済分析特論												
												産業中毒	産業中毒学特論						地域保健	地域保健学特論												
												環境保健Ⅰ	環境保健学特論Ⅰ						国際政策	国際保健政策学特論												
												環境保健Ⅱ	環境保健学特論Ⅱ						Heal. Mana.	Seminar on Healthcare Management												
												保健政策	保健政策学特論						Uni. Heal.	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society												
												経済経営	医療経済・経営学特論																			

D R I P H